

現在、全米でグローバル教育、異文化間コミュニケーションの重要性が強調されている中、大学で外国語の授業を選択し、受講する学生数は減少し続けている。初級の授業を受講しても中級、上級へと継続せずやめてしまう学生も少なくない。特に日本語のような数少ない教員で切り盛りしているリベラルアーツ大学の小さい言語プログラムにおいて、学生数は、教員の職の安定、生存問題に直結し得る。どうしたら学生数を増やせるか、受講を継続させられるかは、プログラムの持続性という観点から見ると非常に深刻な課題である。本講演では、学生の言語学習に対するモチベーションの面から学生が受講をやめてしまう状況を把握し、プログラム持続のため、その課題にどう取り組むべきかを考察する。

初めに、全米全体の大学の学生数の変化の統計を提示し、その中でもニューヨーク州都周辺の私立大学の例に用いながら、近年のアメリカの大学が何を重視する傾向にあるか、それがリベラルアーツ大学の外国語も含めた人文学科に及ぼす影響を考えてみる。コロナ後の社会情勢にも関連付けながら、大学レベルでの外国語受講者数の統計についても論じたい。

次に、言語学習のモチベーション、そしてモチベーション喪失(demotivation)の理論や実証研究を通観し、学生が言語学習を継続しない理由について模索したい。また、本校で外国語のクラスをやめた学生を対象に行ったパイロット調査結果を共有し、モチベーション喪失という点から分析を行う。

終わりに、昨今の大学生の外国語学習に対する見解を Global English という理論を背景に考察する。その上でクラスの受講者数、継続者数を増加させ、我々のプログラムを持続させるには何ができるか提案したい。